

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 宙組	6 月 19 日 (木)	白木優香

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス～光～ 光であそぼう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
前回の活動を通し、光を鏡にあざると反射することに関心を持ち、興味を持っている。		
活動スケジュール		環境設定・準備物
時間	内容	
11:00-11:10	・「光の反射って、何だったかな?」「お部屋の中でどんなものに反射したのかな?」「鏡の他にも反射したものはあるかな?」等、1プログラム目での探検で気づいた光の反射について、その時出た予測を振り返る。 ・「他にもどんなことが起きるかな?」等、その後、見つけたり、考えた新しい予測を共有しあったりしてホワイトボード等に記録する。 ・保育室を暗くして試してみようと提案する。	・ 光の動きを観察しやすいように、暗くできるスペースを確保し、懐中電灯や鏡を使用しやすい配置にする。 ・ 前回の記録に、今回の取り組みの追記ができるように準備しておく。 ・ 懐中電灯について、明るさの確認と、子どもの手に持った際に危険な箇所がないか確認しておく。 ・ 暗転した保育室で災害が発生した場合でも、瞬時に対応ができるよう、避難経路の確保と備品の確認をしておく。 ・ わかりやすいイラストや写真を選定する。 【準備物】 ・ 懐中電灯 ・ ホワイトボード、マーカー ・ 鏡(ミラーシート等割れない物) ・ 透明のコップ(プラスチックまたはガラス) ・ 水 ・ 10円玉などの硬貨 ・ ビニールテープなど印をつけるもの ※コップ、10円玉はグループ数だけ用意 ※鏡はできれば人数分用意する ■ 参考資料 ・ 光の反射の図解 【事前準備】 ・ 予め実験を行い、うまくいくか試しておく。 ・ 光あそびのために、ビニールテープなどで印をつけておく。 ①ゴール地点2,3か所 ②立ち位置グループの人数分 ・ 探究活動に使用する用具(懐中電灯、鏡など)使用方法をあらかじめ設定しておく。 ・ 反射のするものが室内にあるのかを確認しておく。
11:10-12:25	・ 反射する物しない物を実際に実験してみる。「光の当て方を変えると反射は変わるかな?」等、探究が広がるような声掛けをする。 ・ 「どんな物だとできたかな、できなかったかな?」「光の当て方を変えると光はどうなるのかな?」「よく反射した物は何かあったかな?」「反射した光を反射したら光はどう進むのかな?」等、反射する物しない物の特性について振り返る。 ・ 鏡を使った簡単なリレーあそびを行うことを説明し、ゲームを開始する。ルールを説明し、光を反射させてゴールを照らすまでの時間を競う。 ・ グループごとに違うゴールを示すなど、変化をもたせて活動が広がるように提案する。 ・ 「光はどうやって進んでいたかな?」「工夫したところはどこですか?」「鏡をずらすと進み方はどう変わったかな?」「光の大きさや明るさはどうなったかな?」等の質問を通じて、活動を振り返り、光の反射についての気づきを援助するような声掛けをしていく。	

11:25-11:35

・光を使って色々なマジックができることを話しグループに分かれて実験を行う。光の屈折がより気づきやすいように援助する。

・「10円玉はどう変わったのかな?」「どうして消えるのかな?」「水の量で見え方は変わるかな?」「初めから水が入っているコップを置いても同じ結果になるのかな?」等、なぜ消えたように見えるのか、角度によって消えたり見えたりするのか考えるきっかけを作り、話し合っていく。

・今回のマジックの結果を振り返り、「どうして10円は消えたのかな?」等、疑問を問いかけ、考えるきっかけを作っていく。

・実験の感想や、どうして10円が消えて見えるのか予想を発表する。

11:35-11:40

・光が水を通るときに曲がってしまうことを光の「屈折」というと説明し、お風呂で腕の角度が曲がって見える等、身近に起きている具体事例をあげ、他にどんなものがあるのかを予想し発表する。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・子どもたちは 保育室にあるもので 反射しそう なものを考え、実際に光をあて 実験した。 ・光の角度により 変化があることに気づき、いろいろと 試していた。 ・10円玉の実験では 水を入れると見え方が 変わることを 発見し「消えた!」と 盛り上がり していた。	<子どもの姿・声> ・制作で 使用した 金の折り紙は 反射すると 予想し 光をあてると オレンジの光が 反射することに 驚いていた。また裏の白い紙が 反射しないことも 発見し 興味をもっていた。 <保育者とのかかわり> 「金や水に 光をあてると どうなるかな?」と 問いかけ、 子どもたちが 考える機会を 増やした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・制作に使用した折り紙が 近くにあった ことにより、「これも反射しそう」と 試してみよう 姿が見られた。また、裏の白い紙や赤・青などの 折り紙は 反射せず「ピカピカしているところが 反射するだね」と 子どもたちなりの 結論を 出すことができていて 良かった。	「あれはどうなるのかな?」等 子どもたちから 疑問や不思議な 気持ちや、「ニクン 出てきたり、近身 身近な 素材で 言えそう 姿が見られたことは、 成長を感じさせます。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 宙 組	9 月 11 日 (木)	白木優香

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ~ 食べもの ~ 食べ物の働きを調べてみよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
三色食品群を見ながら 食事をしているため、それぞれの 食材の働きを知り 興味を持っている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
11:00 - 11:10	・前回の活動を振り返る。	【環境設定】 ・調べたり、興味関心を深めたりできるように、図鑑やタブレットを活用できる環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
11:10 - 11:30	・食べ物の働きを調べてみようという提案する。 ・必要な用具を用意する。 ・調べたい食材を選ぶ。 ・調べた食材の働きを調べる。	
11:30 - 11:40	・調べた内容をまとめ、発表する。 ・完成した水探索マップをみて、今回の活動を振り返る。	【活動使用教材】 ・iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) ・絵本 ・食材の写真 ・筆記用具(鉛筆、色鉛筆、カラーペンなど) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・食材の写真を印刷しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・ 三色食品群のイラストを見ながら、食べ物にはそれぞれ働きがあることを知り調べてみる。 ・ この働きをする食べ物は何か？とクイズ形式で食べ物の働きを探究していく。 ・ 好きな食材を選び、グループごとにまとめた。	<子どもの姿・声> ・ 「ごはんとパンは同じなんだ」と働きに驚いていた。 ・ 友達の見聞を聞き、「緑のところには野菜が多いね」と気付いていた。 <保育者との関わり> ・ 三色食品群のイラストを見て「同じ色のところは共通点があるかな？」と問い掛け考えられるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・ 三色食品群を白頃から見ていることで、色ごとの分類はスムーズにできた。共通点を考えてみることで、思考力や発想力が育っていると感じた。 ・ 自分の体と食べ物が密接に関わっていることに気付く、食べ物や体への興味を深めることができた。	白頃からの習慣が身に付くという事は、大事な事ですね。 これから、習慣の大切さを継続して欲しいです。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 そら 組	10 月 10 日 (金)	白木優香

● 実施計画

活動テーマ		
アート ～色のふれき～ これは何色？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
お絵描きの際は好きな色の服を描いたし、「ピンクの花が好き」「青い服にしよう」など好みの色について話す姿が見える。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00-10:15	・「いろおに」をして、保育室内の色に関心をもたせる。 ・色の原料の写真から何色ができるかを考える。 ・12色の色画用紙の中から、好きな1色を選ぶ。 ・選んだ理由を考え、なぜその色が好きなのかを考える。	【環境設定】 ・子どもたちがたくさん色を見つけやすいように、環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 【準備物】 ・12色(赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶)の色画用紙 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真(赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クチナシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨) ・寒色暖色中間色の色見本
10:15～10:30	・白い画用紙を選んだ色と同じ色にしてみようと問いかける。 ・素材から何色になるのかを想像して白画用紙にこすりつける。	【事前準備】 ・赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶色の八つ切り画用紙→16等分に切り分ける。(人数分またはグループで1セット)
10:30～10:45	・色の持つ印象について話し合う。 ・「どの色が楽しい?」「どの色が悲しい?」など、色彩心理学の視点から色の効果を体感する。 ・「赤は元気が出る色?それとも静かな色?」など、感じ方の違いを共有する。 ・学んだ色の働きや面白さについて発表し合う。 ・生活の中で色を意識する機会を増やすよう促す。 ・身の回りの色に注目し、それぞれが持つ意味や効果を考える。 ・「今日学んだ色のことを、これからどんな場面で思い出せるかな?」と問いかけ、生活と結びつける。	・色の効果、寒色暖色中間色について事前に学習して理解を深めておく。 ・色の原料について事前に学習して理解を深めておく。 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真。(赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クチナシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨) ・寒色暖色中間色の色見本をプリントする。 ・白い画用紙と着色が期待できる素材を複数用意しておく。 ・色彩心理学に関する資料を用意し、理解しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
12色の中から 似ている色、遠い色を探して並べた。色彩心理についての話を聞き、「あたたかい色」「寒い色」と分類した。友達と色の印象を話し合い、色の持つ交わりを実感していた。 実際に 12色の中から好きな色とその理由を考えることで、それぞれの色への理解を深めた。	〈子どもの姿・声〉 ・「火もあたたかも あたたかい色だ」と気づき、暖色がなぜ暖と感じられるかを考えていた。 ・好きな色と理由について、友達と相談しながら考え、言葉にしていた。 〈保育者との関わり〉 ・「この色を見ると どんな気持ちになっちゃうかな?」と問いかけ、考えるきっかけにしようとした。 ・暖かいもの、寒いものには何かがあるか問いかけ、暖色と寒色について 気づけるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
自分の好きな色の理由を考えてみることで、色への理解が深まり、色への興味も持つことができていた。 活動後、自由遊びの際にお絵描きをしていた児が「ほっぺをピンクで塗ると赤で塗ると、ちよっと違うね」と話していて色への理解が深められたと感じた。	原色本来の持つイメージと子どもたちの心理的イメージが、重なった様子が見えられた。 視覚から入るイメージが、これからどのようにふくらんでいくか? 楽しみである。